

瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2023年2月20日

発行人 (宗) 真光寺

岡本和幸

印 刷 現代社

編 集 (宗) 真光寺

問い合わせ先

(宗) 真光寺

TEL 0438-75-7414

○お寺HP

<http://www.shinko-ji.jp/>

○上総自然学校HP

<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>

○お寺ブログ【瓦谷山だより】

<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.52

ことし年男の私は、めでたく還暦を迎えます。もともと体が弱かつたので、よくここまで生きられたものだという感慨がある一方、残された時も限られているというのに、何もかもが遅々としてまったく進んでいないではないかといういらだちも感じます。無我夢中でいろいろなことをやってきましたが、体力が低下してだんだん先が見えてくると、不安や焦りの念が増すことに気づかされました。

私たちは、明日も命があるものと思つて生きていますが、それは妄想にすぎません。元気だった人が突然倒れてそのまま亡くなったり、外出先で不慮の事故に遭い、帰らぬ人となることもあります。ある程度年齢を重ねた人の場合は仕方がないと諦めがついても、若い方が突然亡くなると心の整理に時間がかかり、近しい人たちはいつまでも納得などできないのだろうと思います。明日どころか一秒先もわからないこの命ですが、たとえ妄想であつたとしても思い描く未来を抛りどころに、日々働いて明日の糧を得ていかなければならぬ、それが現実ではないでしようか。

人間が生きる上で、抛りどころは大きな意味を持つています。かつての神仏に代わり、今は民主主義や平和主義、科学などの知見に基づいた価値観が現代社会の根幹に据えられ、物事を考えたり判断する際の抛りどころとなっていますが、仏教の考え方をもつてすれば、それらも妄想にすぎません。なぜならば、常に検証が必要だからです。かつて学者は胸を張つて原子力の安全性を主張していました。しかし福島の原発事故を経た今、そんな人物はメディアからすっかり姿を消しています。そしてロシアは国連の制止を無視しウクライナに侵攻しました。原子力がもたらすはずだった「明るい未来」も国際社会における平和維持の営みも、自然災害や独裁者の出現によつて大きな打撃を受けたわけで、その事実には絶望的な思いも禁じ得ませんが、妄想を抛りどころとしていた仏教では、人間が物事を認識すること細かに分析しています。

有名なのは『般若心經』の冒頭の、「照見五蘊皆空 度一切苦厄（五蘊は皆空なりと照見し、一切の苦厄を度したまえり）」という一節です。

人間は形あるもの（色）を感知すると（受）、頭の中でこれは何か、自分にとつて有益か否かなどとさまざまに思考を巡らせます（想）。そして何らかのリアクションをしたり（行）新たな経験則や認識を得ます（識）。色・受・想・行・識を五蘊といいますが、それぞれの要素が縁によつて出合うのであるからそのときどきに変わつていく、したがつて確固とした不变のものなどない（空）と見極めれば、苦しみも災厄も無くなると『般若心經』は説いています。同じものに対しても、人間のとらえ方は刻々と変化していきます。自分の考えを変えるのは難しいと思われるかもしれません、五蘊という見方に立つてみれば自分自身が流動的なのですか？ そこで生まれる認識もおのずから変わつてくるわけです。

釈迦は臨終の床から弟子たちに「自灯明・法灯明」という言葉を遺しています。自分以外の何かを頼ることなく、生まれれば死に、季節は移ろい、夜が明ければ朝が来るといった変わることのない普遍的な真理（法）を抛りどころとして常にものごとを正しく見るよう努め自ら考えよ、と教えています。そのときどきの条件によつて移ろうものごとに惑わされるとなく絶えず検証を続け、自身の判断を抛りどころとして進む以外に道はない、というのです。

今年のお正月も、おおぜいの皆様にお参りいただき、三が日は御祈祷に明け暮れましたが、私は日ごろから「御祈祷は気休めでしかありませんよ」とよく言います。がつかりされるかもしれませんけれども、気休めはとても大切です。心を強くすることなどできませんが、心を休め冷静になることはできます。気持ちを切り替えたり、豊かな気持ちになつたり、気を引き締めたりすることができます。未来はとても壊れやすいのですから、常に不安がつきまといます。肝心なのは、抛りどころが崩壊したときに自分自身の心を見つめ、くじけないで修正していく力を持つことです。

平安時代に端を発するお彼岸の時期が近づいてまいりました。仏教徒にとって春秋のお彼岸は年に二回の特別な一週間です。この機会に気持ちを休めて仏さまと向き合い、自分自身を検証してみてはいかがでしょうか。お寺では彼岸法要を行います。ぜひ御参詣下さい。

◇年末大掃除

近隣の檀信徒の皆様や縁の会会員の皆様のご協力のもと、大掃除を行いました。建物が多い真光寺にとって大掃除へのご助力は大変ありがたいことであります。各御堂の一年で溜まつた汚れを隅々まで綺麗にしていただき、気持ちよく新年を迎えることが出来ました。ご参加された皆様に改めて御礼申し上げます。



窓拭きや草取りをしていただきました

◇年頭祈祷・修正会

元旦から三日まで年頭祈祷、三日の午後からは修正会を厳修しました。室内安全、所願成就、厄除けなどをご本尊様に祈願。晴天に恵まれたいへん穏やかな三が日だったこともあり、多くの方がご参詣になり賑やかな新年の幕開けとなりました。



お経の功德を受ける参列者



ご焼香で御本尊様に新年のご挨拶

午前は足の組み方や姿勢、呼吸の調え方等の指導の後、三十分の坐禅を二回行いました。初めての方も多く、なれない姿勢で長時間坐るのはちよつと大変かも、と心配でしたが、皆さん最後まで身体を真っ直ぐに良い姿勢で坐られていました。

午後は写経。初めに写経の意義や書き方を説明し、字の上手い下手は関係なく、お経を丁寧に書き写すことが大切であることをお伝えしました。その後、今回写経するお経『般若心経』を全員で読誦。書写した写経は、最後にご本尊様に納経いたしました。



静かな書院で写経に集中



坐禅堂で心静かに坐りました

真光寺「禅寺ツアーア」を開催しました

袖ヶ浦市観光協会と連携し、昨年の十二月から今年の二月にかけて「禅寺ツアーア」を開催しました。

これは観光庁が実施した地域独自の看板商品創出事業のひとつに採用されたことで実現したものです。

真光寺では以前から、ゆつたりとした時間の中で自分と向き合い、心を落ち着けることができるようなプログラムを実施したいと考えていました。その手はじめとして①坐禅と写経体験②仏像彫刻体験③ヨガと里山・山城跡ウォーキングの三つのコンテンツを企画し募集したところ、多くの方々のご参加をいただきました。今回はその時の様子をご報告いたします。

坐禅と写経（全四回開催）

ヨガと里山・山城跡ウォーキング（全四回開催）

午前はインストラクターの二階堂敦子先生ご指導によるヨガ体験。初心者向けの内容でしたが、お寺でのヨガはとても新鮮だったようで大好評。皆さん心地よいひとときを過ごされていました。

午後は住職の案内により、真光寺の向い側にある川原井里見城跡周辺を散策。冬の清々しい里山の道を歩きながら、真光寺が開創したころの時代背景や地域の歴史について楽しく学びました。



彫刻刀の基本的な使い方を習う

仏像彫刻体験（全八回開催）

仏師の鈴木謙太郎先生のご指導により、童地蔵刀を使つていただきました。参加者の中には彫刻刀を使うのが数十年ぶりで不安な方もいらしたようですが、時間が経つのも忘れてしまうほど集中して取組み、完成させることができたとのこと。充実感に満ちた体験だったようです。



城跡前で歴史を語る住職



外の空気を感じながらヨガのポーズ

アジサイロード完成顛末記 その四

住職 岡本和幸

昭和六十一年二月二十二日、大本山永平寺を乞暇（こうか）修行を終えて山を下りるこ

と）して駒澤大学内にある曹洞宗教化研修所

に入所し、世田谷での初めての一人暮らしが始まりました。山腹の寺で生まれ、大学時代も寺暮らしでしたので、とても新鮮でした。

曹洞宗から奨学金をもらっているとはいって、生活はギリギリです。師匠のお寺である新宿天龍寺のほか、お盆には北海道のお寺や埼玉県のお寺にお手伝いに行ったり、広島市内の

お寺へ社員研修の補助に行つたこともあります。各寺により住職の考えも違い、また仏事や習俗はそれぞれ地域性があり、やり方や考え方方が微妙に異なるものです。こうした各地、各寺での経験は大変新鮮なものでした。

学生時代からお付き合いのあつた、新宿天龍寺住職の甥にあたる四谷東長寺の瀧澤和夫師にもお声がけいただき、休日にはお手伝いに上りました。

東長寺の先代住職瀧澤興準師は私が永平寺を乞暇したその日に御遷化されていました。東長寺の本堂と庫裏は空襲で焼失し、戦後まもなく材の不足する中急ごしらえで建てられたため、すでに傷みが出始めっていました。そこで新住職の和夫師は急速建て替えを発願されますが、時はバブルの真只中です。土建工事の同窓生である建築家や弁護士、税理士、

芸術家などを集め、二十一世紀の都市寺院のあり方をあらゆる方向から模索探求し、新伽藍の中取り込もうと考えておられました。私もその過程にいささか参加することとなり、坐禅堂の設計や、葬送の歴史についてレポートを依頼され原稿料を頂戴することもありました。



東長寺本堂正面



東長寺の全景

この年教化研修所を修了した私は、瀧澤師に誘われ、東長寺に奉職しました。師は私にお寺の仕事はやらないで良いから、フェーズ2の東長寺文化局を作り上げて欲しいとのご依頼にもとより、お寺の会計、そして五階建のビルにも相当する東長寺伽藍の巨大なボイラーや冷温水発生器など、設備の管理まで担当することになりました。

休みもなく夜遅く家に寝に帰り翌朝早く出て行くという過酷な毎日で身体を壊しかけましたが、思えば僧侶としての経験のみならず、経理や設備もある程度見ることができるようになったのはこのときの蓄積のおかげです。大学入学以来お世話になつた新宿天龍寺でも、本堂庫裏の全面的な建て替えの最中に入山、引っ越しから落慶まで経験し、再度東長寺で引っ越しから落慶までの一部始終にかかり現代アートのギャラリーまで設けた斬新な発想による建物であるばかりか、寺院の運営に広げ、当時は珍しかった室内墓地や室内位牌堂人々が集い癒されるお寺をコンセプトに設計されました。限られた敷地の中で地下へと境内をかわったのも、真光寺の建設に始まり曹洞宗千葉県宗務所祥雲寺、東長寺文由閣と、たびたび寺院建設に参画することになつたその後の人生に大いに役立つ貴重なご縁であったようにも思います。

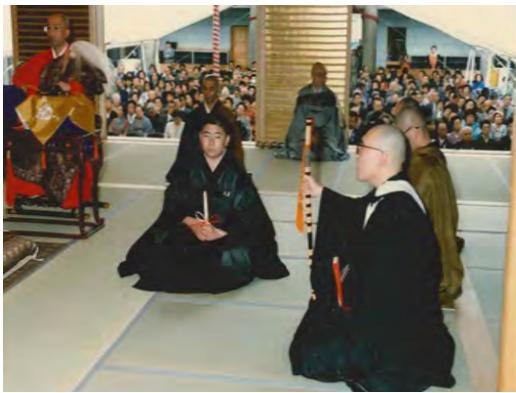
は寺院活動、フェーズ2は寺の文化活動、フェーズ3は現代芸術文化活動、フェーズ4はお寺では扱えない株式会社の生産活動という四つの分野を開拓し、それぞれのフェーズが刺激し補完し合いながら都市部での寺院の役割を果たしていくこという、新たな時代における寺院経営の先駆けとなつた試みでした。



スタディーツアーに参加した当時の
アンコール・ワット

このころ曹洞宗国際ボランティア会、後の中華人民共和国ボランティア会を訪ね、創始者であつた有馬実成師ともお話をさせていただきました。仏教は社会に求められていないと

平成二年の落慶法要の際に、私は和夫師を第二の師匠として首座という役を務め、僧侶としても一段階進むことができましたが、一任された東長寺文化局をどう立ち上げていくかが以下の悩みの種でした。何をして良いのやらさっぱりわからないながらもとりあえず動くしかないと考え、フェアートレードの会社のツアードの悩みの種でした。何をして良いのやらさっぱりわからないながらもとりあえず動くしかないと考え、フェアートレードの会社のツアードの公演



平成二年 東長寺で首座を務める住職(手前)



本場仕込みのバリ島芸能

このころ曹洞宗国際ボランティア会、後の中華人民共和国ボランティア会を訪ね、創始者であつた有馬実成師ともお話をさせていただきました。仏教は社会に求められていないと

奏家や邦楽の演奏家、バリ舞踊の演奏家や舞踊家などが集まって来るようになり、それらの人々の要望を受けて東長寺本堂を舞台に様々な公演を開催、多い年は年間四十公演を数えました。派生的に「寺子屋教室」も始まりました。

だんだんと人の輪が広がってインド音楽の演奏家や邦楽の演奏家、バリ舞踊の演奏家や舞踊家などが集まって来るようになり、それらの人々の要望を受けて東長寺本堂を舞台に様々な公演を開催、多い年は年間四十公演を数えました。派生的に「寺子屋教室」も始まりました。

だんだんと人の輪が広がって印度音楽の演奏家や邦楽の演奏家、バリ舞踊の演奏家や舞踊家などが集まって来るようになり、それらの人々の要望を受けて東長寺本堂を舞台に様々な公演を開催、多い年は年間四十公演を数えました。派生的に「寺子屋教室」も始まりました。

「ハッシン・サンガ」のメンバーの思いが集結し、自然発生的に始まった「アジア祭り」でしたが、日本で暮らすアジア各国の仏教徒の方々が東長寺に集い、ブッダに祈りを捧げ、歌つて踊り、故郷の味に舌鼓を打つというイベントの底流としてあるのは、やはり亡父が昭和三十年代に松寿寺「万松会」で行っていた文化活動だったようと思われてなりません。知らず知らずに親と同じことをやっている自分がいます、親とは不思議なものだと思っています。



アジア祭りロイクラトンの様子

こうした教室の関係者や坐禅会の会員などの有志から、東長寺を拠点に活動したいという声があがり、発足したのがボランティア企画団「ハッシン・サンガ」です。自主公演の企画も手掛けるようになり、その発展形として東長寺の伽藍全体を開放しての一大イベント「東長寺アジア祭り」も七回にわたり開催しました。

なかでも在日タイ国留学生協同と協同し、ロイクラトンというお祭りを再現したときには、七万人ともいわれた不法滞在を含む在日タイ人の方々から大きな反響が寄せられました。道路に敷物を敷いて久しぶりに知り合いと歓談するタイの方々の姿は圧巻で、資金面はもちろん、管轄の警察や行政などとの折衝をはじめとして苦労も非常に多かつたのですが、やつてよかったですと心から思いました。

袖ヶ浦地名とヤマトタケル伝説

袖ヶ浦で暮らす私たち、また縁あってこの地に愛着や興味を持った多くの方々は、袖ヶ浦のことをもつと知りたい、あるいはもつと知つてもらいたいと願つているのではないでしようか。

私もその一人で、この論事を連載させていたたいて
いる目的も、つまるところそこにあります。「袖ヶ浦ナ
ンバー」の車は全国を走り回り、最近ではシティーブ
ロモーションも盛んで、「そでがうら」の知名度アップ
を図っていますが、私たち自身が袖ヶ浦という地名の
ことをしつかりと理解し、誇りをもって広めていきた
いものです。そこで、今回は袖ヶ浦という地名の話と、
それに関係するヤマトタケル伝説（オトタチバナヒメ
伝説を含む）についての話をしましょ。

■ 東京湾岸の「袖ヶ浦」

「袖ヶ浦」や「袖の浦」という地名は、袖ヶ浦市に限つたものではなく山形県や島根県、静岡県、神奈川県など、日本の各地にみられる地名です。東京湾の沿岸では、習志野市にも「袖ヶ浦」があり、江戸時代には品川や芝あたりの海岸や浦安から富津にかけての広い範囲が「袖ヶ浦」と呼ばれていたといいますから、ぐるりと東京湾をめぐる海岸部一帯が袖ヶ浦とよばれていたといふことになります。

江戸時代、現在の袖ヶ浦市域には、今の「大字」にほぼ相当する「村」が37ほどありました。その時代の村の名称は、坂戸市場、蔵波、横田、川原井などとうように、今の住所として残っているものが多くあります。それが明治22年（1889）以降順次施行された町村制によって7つの村（檜葉村・神納村・長浦村・根形村・平岡村・中川村・富岡村）になり、昭和7年

て選出された自治体名称だったのです。

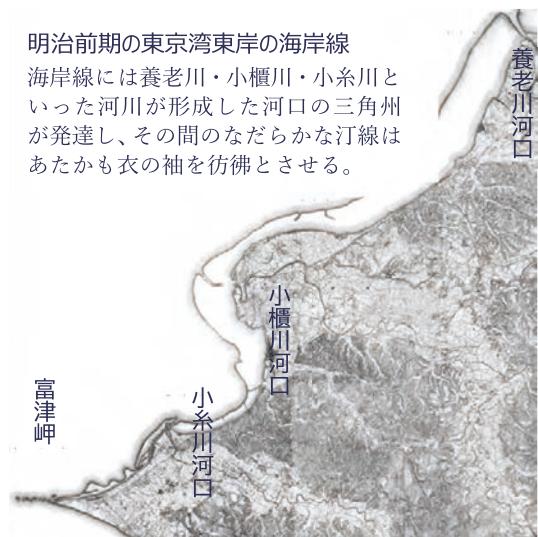
その後、「袖ヶ浦町」は昭和46年に平川町と合併して新生袖ヶ浦町となり、平成3年に市制を施行して「袖ヶ浦市」となったのです。(この時に袖ヶ浦の「ケ」を

（大和町）の議論あり審議の結果審議会としては（袖ヶ浦）と決定する」とあり、袖ヶ浦の他にも、富士見町、望陀町、大和町などの案があつたことがわかりります。

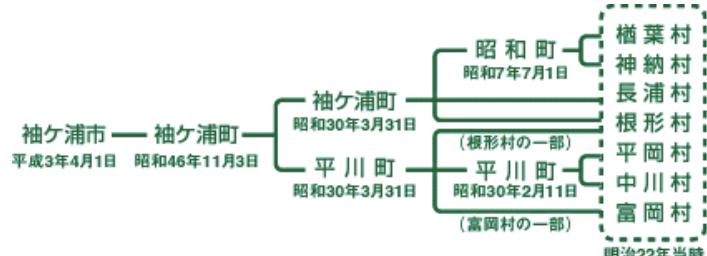
谷中及び三黒を除く。)は、合併して袖ヶ浦町を設置した。新町名の決定については、三ヶ町村共特に意を用い、広く住民の希望意見を徴すると共に旧来の名称及び歴史的な関係を考慮し(傍点は筆者)袖ヶ浦町とすることに意見の一致をみたものである。」と記されています。また、合併を控えた昭和30年2月28日に長浦村役場で開催された「長浦村町村合併研究協議会」の記録には、「義易(一)、町名二つ(袖ヶ浦町)(富士見町)(里花町)

（1932）の昭和町の誕生（榎葉村と神納村が合併）を経て、昭和30年（1955）の町村合併に伴って新しい町名「袖ヶ浦町」となりました。

明治前期の東京湾東岸の海岸線
海岸線には養老川・小櫃川・小糸川とい
った河川が形成した河口の三角州
が発達し、その間のなだらかな汀線は
あたかも衣の袖を彷彿とさせる。



袖ヶ浦市誕生までの経過



袖ヶ浦市誕生までの経過
袖ヶ浦市 — 袖ヶ浦町 —
平成3年4月1日 昭和46年11月3日

及ひ歴史的な関係とはどのようなことを指しているのでしょうか。きっとそれは、東京湾沿岸一帯が古くから袖ヶ浦とよばれてきた歴史、そして『古事記』や『日本書紀』の記述にあるヤマトタケル

■袖ヶ浦のヤマトタケル伝説

■袖ヶ浦のヤマトタケル伝説
房総半島には、ヤマトタケルやオトタチバナヒメを祀った神社が多くあり、また、この二人に関係する伝説や地名なども多く残されています。伝説の源流は『古事記』や『日本書紀』（記紀）に遡ります。記紀の記述の概略は、「ヤマトタケルノミコト（古事記では倭健命、日本書記では日本武尊と表記）一行が、相模さがみから走水（はしりのみず）を渡り上総に向かおうとしたとき、海が大變化になり、一行を乗せた船が進めなくなつた。その時に、同行していたオトタチバナヒメ（古事記では弟橘比売命、日本書紀では弟橘媛）が、荒れる海に身を投じて海神の怒りを鎮め、ようやくミコトの一行は房総へ上陸することができた」というものですが、しかし房総

におけるヤマトタケルの記述は以外と少ないのです。

しかし、その記述の少ないことがかえつて多くの伝説を生み、語り継がせる余地を残したのかかもしれません。

袖ヶ浦市内でヤマトタケルを祀る神社は、大鳥居神社（大鳥居）、小高神社（滝ノ口）、御鉢殿（三黒）の3社。

三黒地区には、御鉢殿と対面するようにオトタチバナヒメを祀る吾妻神社があり、二人は今も見つめあっているかのようです。坂戸神社（坂戸市場）、国勝神社（岩井）には戦勝祈願をしたとの伝えがあるのですが、さて、

このヤマトタケルとは何者なのでしょうか。
記紀の記述によれば、第12代景行天皇の第2皇子で、名は小碓命またはヤマトオグナ。景行天皇に疎まれ、西へ東へと行軍させられた挙句の果てに、都には戻れず亡くなっています。ヤマトタケルという呼称は、熊襲（九州の西南部）へ攻め入った際に、ヤマトの勇猛な首領という意味で、攻められた側のクマソタケルが捧げたとされるものです。ヤマトタケルはクマソタケルによって命名されたわけです。また、単にヤマトオグナ（ヤマトの男）とも呼ばれているので、特定の

人物ではないことになります。

ヤマトタケルを単にヤマトの勇猛な男または首領、

しかも不特定多数にしてしまうと、なんだか味気ないのですが、このことは、ヤマト王権が4～5世紀頃に

かけて行った東国進出を物語るもので、古代国家の成

立時に行われた多數の遠征軍の派遣にまつわる話を一

人の英雄の叙事詩にした結果と受け止めなければなりません。

袖ヶ浦市周辺のヤマトタケル伝説は、当時の東海道が相模から上総に渡るルートであつたことを示しているのです。この東京湾を渡る東海道は古東海道とよばれます。このルートで結ばれる三浦半島の付け根付

近と西上総の木更津・袖ヶ浦周辺にみられる前期古墳の分布は、ヤマトタケルの「東征」コースと符合するものとなっています。そして伝説の数の多さは、畿内から太平洋側ついに関東を結ぶ国土軸、関東と東北を結ぶ国土軸の結節点として、西上総周辺がいかに重要な地域であったかを物語つているのです。

瓦谷山だより



古代東海道の変遷図

初期の東海道は相模国から海路で上総国に至った。そのルートが武藏国経由に変更されるのは宝亀2年（771）のことであった。

■袖ヶ浦市三黒のオトタチバナヒメ伝説

オトタチバナヒメを祀る神社は、東京湾に面した西上総地域、南房総、東上総地域にいくつもの伝説を伴って分布しています。西上総では、木更津市の吾妻神社（オトタチバナヒメの衣の袖が流れ着いた）、富津市富津の貴布禪神社（入水時の白布が流れ着いたので布流津といった）、富津市西大和田の吾妻神社（袖が人見より北の海岸に流れ着いたので袖ヶ浦というようになった）などの伝説が有名で、長い歴史を経て今に受け継がれてきたことがわかります。そして、袖ヶ浦市にも、オトタチバナヒメを祀る吾妻神社があり、興味深い伝説が残されています。

その伝説というのは、「走り海の海難で入水したオトタチバナヒメの遺骸が金田の畔戸に漂着し、当地に至つてその御骸を埋葬した」という伝説です。そして、この骸から三黒という地名になつた、三黒とはヒメの遺

骸、御骸が転訛した、とする地名誕生譚があるのです。実際にこの神社の境内には丸山塚という塚が残されていました。ですが調査の結果、古墳ではないことがわかつています。

この三黒の吾妻神社に接して、松見寺という普化宗の寺（虚無僧寺）がありました。その寺の境内に天保7（1836）年に建てられた石碑には、「この橘神社は往昔彼海中の難に逢て、夫神の為に身を海底に投じて忽是を救ふ。」中略「吾妻の神の事實は、眞具に國史に載せて漏らすことなく、草刈る童、漁とる蟹もよく知る由ならばわきて記さず」以下略と刻まれています。

江戸時代中・後期以降の国学の隆盛・尊王論の台頭といった社会の動きの中で、「記紀」の伝承が広く民衆にも及び、オトタチバナヒメの伝説も尊王論の高揚に果たす役割があったものと思われます。明治時代以降でも、ヤマトタケルとオトタチバナヒメの伝説は小学国語読本巻七に掲載され、さらに広まっていきます。

『平川町史』によれば、昭和12（1937）年5月6日の報知新聞に、「弟橘媛の御遺骸埋葬地発見さる」君津郡根形村在で」という記事が掲載され、同年7月3日には国民新聞でも「弟橘媛命の御事蹟永へに伝へる根形村伝説の御陵墓確認、中央で奉賛会設立」と大きく載り、全国的に注目を集めました。このような機運の中での、大日本国防婦人会の会長が幹部と共にこの神廟に詣で、根形村国防婦人会の前で、「弟橘媛命は日本婦道を示した方である。国防婦人会の目的は日本婦徳の発揚であるから、村内に御陵墓のある根形村の国防婦人会員は大いに婦徳を発揚するよう」と挨拶したとあります。

古代の東西交通の要衝であり、東国の玄関口であつた重要な地域であつたからこそヤマトタケルとオトタチバナヒメの伝説は生まれました。伝説を史実として捉えることはできませんが、時々の社会動向や国策などの影響を受けながら顕在化し、消えることなく私たちの身近な伝説であり続けているのです。

上総自然学校（里山再生活動）

浅間山の整備



伐採、草刈りをして明るくなつた祠周辺。



山から切り出した木や竹を使って階段や土留めを整備します。

そこで、階段を作り道幅を広げ、安全に通行が出来るように作業開始です。急斜面を一段ずつ削り、山から切り出してきた木を使って階段をつけていきます。緩やかな斜面が続く箇所は削って道幅を広くし、土が流れないよう竹で土留をしました。その結果、祠までの昇り降りは以前とは比べものにならない程安全に、快適に出来るようになっています。

前回の寺報でお伝えした浅間山。十二月と一月には禅寺ツアーや山城跡巡りが開催されましたが、開催前にルートの整備を行いました。十二神将の祠がある山の上まではかなりの急斜面になつていて、雨が降るとズルズルと滑ってしまいとても人が登れるような状態ではありませんでした。道幅が狭くなつている箇所も所々あり、踏み外せば斜面下に転げ落ちてしまいそうなほど危険な道でした。

秋の収穫体験



シンプルながら味のある出来ばえ。



先生も楽しみながら教えてます。

しめ縄とリース作り

した。

お寺の境内と里山にある素材でしめ縄とリースを作つてみようというこのイベント。しめ縄は毎年近所の檀家さんが先生を務めてくださいます。子供たちとの触れ合いを楽しんでいて、ユーモアたっぷりに手取り足取り教えてくださいます。リースは全て自分の好みで素材を組み合わせて作ります。なかなかの出来栄えに初



きのこよりも昆虫に夢中！



大きいの掘れた！
焼きたての焼き芋でおやつ。

収穫体験ではお寺横

の畑で育てているさつ

まいもの掘り取りをし

ました。普段見慣れて

いるさつまいもがどの

ようによく埋まっていて、

どうやって掘り出すか

を体験できるのは貴重

なことです。掘り取り

を満喫した後はキノコ

狩りと里山散策です

が、子供たちは虫取り

に夢中です。歩き疲れ

た頃におやつの焼き芋

を美味しくいただきました。

2023年自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------------|---------------|
| ・3月25日（土） | お花見トレッキング | ・5月27日（土） | 水路の生き物観察会 |
| ・4月15日（土） | 田んぼの畔塗りと稻苗作り | ・6月3日（土） | 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| ・4月16日（日） | 田んぼの畔塗りと稻苗作り | ・6月10日（土） | 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| ・5月13日（土） | 田植え | ・7月2日（日） | イトトンボの観察会 |
| ・5月14日（日） | 田植え | ・7月29日～30日（土・日） | 昆虫観察会（宿泊） |

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校フイールドの希少な生き物たち
第十四回・カワセミ

詩人 大島 健夫

カワセミというと、「清流の鳥」というイメージを持つ方が多いと思います。

しかし、実際には、都市公園の池、三面張りのコンクリート水路、深さが親指くらいしかないドブ溝など、けつこういたるところで遭遇します。清流の鳥みたいな気がするのは、もっぱらこの姿が爽やかで美しいからでしょう。写真を一枚撮られるごとにいくらかお金をもらえるとしたら、カワセミは富豪になれるに違はありません。何しろ、一眼レフやデジスコを構えた、人生経験豊かな紳士淑女の皆様が集まっているところこの鳥ありと言われています。何て言つたって、カワセミはやはり綺麗です。近くで見ると、コバルトブルーだけでなく、エメラルドグリーン、オレンジ、ホワイトなど、様々な色彩が溢れんばかりに輝きを放っています。どこの水辺でもバードの大名列ができるには、それなりの理由があるのです。漢字だと「翡翠」と書くだけのことはあります。まさに宝石のような鳥です。

一方で、実質三頭身くらいしかないカワセミは、ドラえもんぼくてかわいい鳥であります。本当はスマートな感じもします。しかし無論、この異常に大きい頭と長い嘴は、かわいいからそうしているわけでもなければ間違つてそうなつているわけでもありません。水中



宝石の翡翠はこの羽の色から付けられたそう。



ザリガニを食べるカワセミ。

だけでなく巣穴を掘る際にも活躍します。カワセミは、川沿いの粘土質の垂直の崖のようなどころにミサイルみたいに突進して、時に1mにも達する横穴を掘ります。そのような行動からも、カワセミの脅威的身体能力がわかります。頭から全速力でぶつかって硬いところに穴を開けるなんて、当たり前ですが人間には不可能です。もしそんなことができるとしたら、人間ではお相撲さんくらいのものです。

ところが、穴を掘ることができないコンクリート護岸の場所などでも、カワセミは結構営巣しています。排水口のパイプを利用したりして無理矢理巣をつくっているのです。カワセミは、決して人を寄せつけない清流の鳥なんかではありません。むしろ、人為的に悪化する環境の中でも必死に適応して生き残ろうとしている鳥です。そうしたコンクリートの三面張りの水路では、きっと水底にぶつけて折つてしまつたのでしょう、嘴が折れたカワセミを見ることがあります。

幸い、川原井の谷津田にはコンクリートの三面張り水路はありませんから、嘴を折る心配はなさそうです。にわかバーダーが押し寄せて営巣を邪魔することもあるません。上総自然学校フイールドにおけるカワセミ

に急降下して小型の水生動物を捕らえる衝撃に耐えるには、こういう体型でなくつちやいけないです。木の枝などでじーっと水中の様子を伺い、突然ダイブしてドボンと水に飛び込み、舞い上がってきた時には魚などをくわえている……

というのが、カワセミの典型的な狩りのスタイルです。我々がいくら凝視しても水面下に何があるのか全くわからないような、どう見ても濁った水でも、カワセミは獲物の姿をとらえ、確実に仕留めることができます。物凄い視力です。

また、この嘴は、狩りだけでなく巣穴を掘る際にも活躍します。カワセミは、川沿いの粘土質の垂直の崖のようなどころにミサイルみたいに突進して、時に1mにも達する横穴を掘ります。そのような行動からも、カワセミの脅威的身体能力がわかります。頭から全速力でぶつかって硬いところに穴を開けるなんて、当たり前ですが人間には不可能です。もしそんなことができるとしたら、人間ではお相撲さんくらいのものです。

カワセミ Alcedo atthis
ブッポウソウ目カワセミ科

千葉県レッドリスト・C (要保護生物)

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉市野鳥の会会長、日本トンボ学会会員。環境省希少野生動植物種保存推進員。近著「身近な生物のきもち」(メイツ出版)好評発売中。

春 彼 岸 法 要

日 時 3月21日（火祝）11:00より縁の会法要

14:00より檀信徒法要

恒例の春彼岸法要を厳修いたします。



お塔婆供養をされる方は事前にFAX・LINEまたはお電話でお申し込み下さい。

縁の会法要にご参加の方は事前にお申し込み下さい。

縁の会彼岸法要お申し込み事項；

- ①ご参加の人数
- ②送迎の有無
- ③お弁当の有無（鴨川名物さんが焼き弁当をご用意します）
※お弁当代として1000円程度のお布施をお願いいたします。
- ④花とうばのお申し込みは同封の「花とうば供養申込書」をご利用ください。



川原井里見城跡めぐりとお花見さんぽ

《どなたでもご参加できます》

日時：3月26日（日）10時45分より

日時：4月1日（土）10時45分より

参加費一名：300円

岡本住職のガイドで真光寺の向かいにある浅間山の『川原井里見城址』をめぐり、桜や春の山野草を楽しむお花見さんぽです。

※要予約

詳しくは同封のチラシをご覧ください。



浅間山からは真光寺がよく見えます。



お寺にゆかりのある場所もご案内。

令和五年 年回表

百	五	三	二	二	十	十	七	三	一
十	回	三	十	三	回	三	回	回	周
回	回	回	回	回	回	回	回	回	
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	
大	昭	昭	平	平	平	平	平	令	令
正	和	和	成	成	成	成	成	和	和
十	四	六	十	十	二	二	二		
三	十九	年	三	九	三	九	三	四	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	



美しく整えられた門松

真光寺の門松

門松は歳神様を迎えるための大切な目印です。今年の門松は昨年暮れに檀家さんに作つていただきました。真光寺にある松、竹、梅、万両等の縁起物を使い、見事にしつらえられた門松により、境内にお正月風情が溢れます。

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月21日（火祝）14時より

春の彼岸法要を行い、ご先祖さまへご回向致します。

花まつり檀信徒総会

《檀信徒》

日時：4月2日（日）11時より

お釈迦様の誕生をお祝いします。法要後に檀信徒総会を行います。

縁の会春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月21日（火祝）11時より

合同での春彼岸法要を行います。

昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。

欠席の場合でもご回向のみ、お塔婆のみのご供養もお受けいたしますのでお申し込み下さい。

※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月16日（木）午前11時より午後2時半頃

費用：3,000円（昼食付）

定員：10名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際にご自分の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。

※要予約

※持ち物：漢和辞典

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

ご詠歌はお釈迦様、お祖師様の教えや、亡き人を偲ぶ心を詞に表し、音楽に乗せてお唱えするものです。初めての方にも丁寧にご指導いたしますので、ぜひ1度ご参加ください。

3月 14日・28日 | 6月 13日・27日

4月 11日・25日 | 7月 11日・25日

5月 9日・23日

時間：15時～16時半

精進料理と聖典講読の会

《どなたでも参加できます》

日時：3月22日（水）4月25日（火）

5月24日（水）6月21日（水）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付（精進料理）

住職による仏教解説の後、と一緒に精進料理をいただき、午後は坐禅や写経をいたします。

※要予約

精進料理と聖典講読の会

七日法要

《縁の会会員》

日時：3月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

4月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭

5月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

6月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

7月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は7月盆施食法要

※要予約

※午前、午後ののみの出席もできます。

8月11日（木祝）8月盆施食法要 午前の部11時より、午後の部13時半より修行致します。

7月・8月の詳細につきましては次号『瓦谷山だより』に掲載。

行 事 予 定

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座

《どなたでも参加できます》

日時：4月3日（月）～4日（火）

14時から翌日13時30分解散

費用：8,000円 1泊3食

囲碁をはじめてみませんか？初心者の方も大歓迎！
対局後は皆さん和気あいあいと囲碁談義に花を咲かせておられます。日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約

坐禅会 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日

15時～16時30分

坐禅初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。足が組めない方も椅子坐禅で無理がないように参加いただけます。休憩をはさんで2回坐禅を行います。

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日

13時30分～16時30分

費用：3,500円 / 1回参加

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。
初めての方でも大丈夫です。當時10名ほどの参加者がそれぞれのレベルに合わせて取り組まれています。※要予約



坐禅会

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時00分着

【平 日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT9時37分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時00分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時30分着

【平 日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時15分→袖ヶ浦BT12時17分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時30分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)